

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201769		
法人名	株式会社 富士見プロジェクト		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	424-0001 静岡県清水区梅ヶ谷645-13		
自己評価作成日	平成26年2月24日	評価結果市町村受理日	平成26年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon:true&JigyouCd=2274201769-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成26年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは閑静な場所にあり季節事に変化する自然の風景を楽しむことができ、利用者様にゆったりと落ち着いて過ごしていただけるよう支援しています。医療面についても、提携病院との連携により、24時間体制で、怪我や病気に對し即座に對応出来るようになっております。又、日々の暮らしに楽しみを持って生活出来るようレクリエーションや、外食、地域の行事に参加等、行う努力、支援をしています。

山間の小路散策では畑作業の人からも積極的に声がかかるというほど、人情豊かな場所に事業所はあります。此処に生まれ育った管理者は「地域の8割は知っている人」と言うだけあり、運営推進会議では昔話に花が咲き止まなかったとのエピソードもあり、確実に管理者が懸け橋を担っています。手書きの便りと行事写真を届けることで家族の電話や訪問が増え、直接話す機会はアセスメントにつながり、新たな利用者の姿が浮かびあがりケアに役立っています。経験の少ない職員が介護技術の向上を共有の目標とすることで自己開示とフィードバックの仕組みが自然に育ち、本年度は介護福祉士の筆記試験に5名が合格しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	25年6月職員全員にてホームに合う解かりやすい理念をつくりました。新しい理念のもと、身近に感じることで、実行に移しています。	「今すぐにも実践できる」「わかりやすい」と満場一致で決まった理念で、職員には深い愛着があります。また管理者の気づきがあれば掲示を指差し「みてみて、いまのちがってない？」と注意克己にも活用されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	管理者が地元生まれ育つたため、近隣との交流も深く、自治会や民生委員の方とも話しやすい環境になりました。	自治会長、梅ヶ谷地区運動会を取り仕切る体育委員、民生委員と地域の顔役と馴染みの関係にある管理者を通じて、多様なリレーションが展開しています。どんど焼きでは席を用意され豚汁をごちそうになりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	良天候の日には玄関を開放しています。所庭にてレクリエーションや日光浴を行い声のかけやすい環境にし情報の共有や提供を目指しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で得た意見や評価を参考にしながら、サービスの向上を目指しています。	此处で生まれ育つた共通点があることから昔話に盛り上がることもあり、和やかな雰囲気の中開催されているため、家族からも思いがけない情報が挙がっています。職員の手作りおやつも賑わいに花を添えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度より、市から相談員を月1~2回程度来所していただき、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいます。	行政からの運営推進会議への参加はありませんが、地域包括支援センター職員が忙しいなか出席くださっています。介護相談員の訪問では親しさゆえ職員には言いにくい事を聴取してくれ、すぐ対応でき助かっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を掲げ、身体拘束廃止委員会が中心になって意識をたかめています。年1回のフォーラムにも参加しています。	法人の方針で身体拘束廃止委員会が設置され、委員は管理者が兼務しています。委員会では年1回フォーラムを開催し、また事業所では年間の事故報告を提出しています。外部研修には職員を輪番で参加させ、会議内での口伝は職員の研鑽にもなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修に参加し、毎月の会議にて話し合い意識の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居相談時に制度の説明を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、納得して契約締結出来るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に自由に意見を記入し投函できる意見箱を設置しています。家族の口頭での意見もノートに書き置きし、職員全員が情報を共有出来るようにしています。	手書きの便りと行事写真を届けることで家族の電話や訪問が増え、それらがアセスメントにつながり新たな利用者の姿が浮かんできてケアに役立っています。またカラオケ訪問の一三会、あおい会は家族の皆さんです。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個別の面談を行い意見や提案、要望などを反映出来るように努めています。	自己開示とフィードバックの仕組みが自然に育っています。外部の人からみれば口論しているかのように見えるほどの意見のぶつかり合いは、本年度の介護福祉士筆記試験に5名が合格することにもつながりました。	新年会や筍堀など職員が戸外で集う機会が増えているとのことですので、今後も楽しい企画を続け、さらにチームワークが高まることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修の提供や希望があるときには、勤務表の考慮をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期だが、姉妹グループホームの管理者、介護職員交えての会議を行い、意見交換をし、相乗効果をたかめています。他施設の職員との意見交換も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員がアセスメントの重要性を理解し、できるだけ早く本人に安心していただけるように、支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは、定期的に連絡をとっており、来所の際には不安や要望の話を聞き、解消出来るよう努めています。毎月利用者の近況報告や要望等手紙にてお伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等がその時まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントを取りながら本人や家族の希望を伺いグループホームで出来る事と出来ない事を説明し、サービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や家事、レクリエーション等での工作物を作る事で、きょう同生活をしているという意識を持ってもらうよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所でのイベントに家族も一緒に参加していただけるよう文書にて伝え、気軽に来所していただける雰囲気を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、知人に手紙を出したり、来所時にはゆっくり話ができるような環境を提供しています。	家族がメンバーのカラオケ訪問や弥生会の歌や踊りが定期的にあります。「ラーメンが食べたい」人、「クラシックコンサートに行きたい」人の要望に家族の協力も得て実現しています。趣味の編み物を続ける人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がスムーズになるようにリビングルームのテーブルや座席を考慮し、孤立する事が無いように職員が間に入り関係を保つよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が停止した後も、必要に応じて可能な限りフォローするようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉を傾聴、受容しコミュニケーションを図り信頼関係を築いていく。利用者本来の考えをしていくよう、職員に指導しています。	「利用者さんは私たちの人生の先輩です」と、繰り返しアナウンスしています。また「判断を独りでしないように」「他の人の視点や意見もいれて、必ず2人以上で」ということも常々言い伝え、利用者の想いを受け留めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人よりこれまでの生活観や環境を聞く、または、以前サービスを受けていた場所からの事情提供を通じて、なじみの暮らし方の把握出来るように努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体で話し合い情報を共有し、日々の暮らし方や心身状態の把握が出来るよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者職員がモニタリングをとり、計画作成者が本人や家族の意見をまとめ介護計画を作成する。ニーズの変更やADLが明確に変化があった場合などにも、その都度見直しを行なっている。	担当制を敷いていますが、カンファレンスにじっくり取り組んでいるため、どの職員もいつ担当が替わっても対応できます。プランは共用空間に置かれ、何かにつけ確認する様子から管理者は浸透を感じています。	面会の少ない家族には現在郵送でのやりとりをしていますが、年1回は面談による説明や確認ができるよう期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要な情報を日々記録し、職員間で情報の共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズは可能な限り対応して行きたいと思っていますが、現段階では多機能への取り組みは行っていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の特徴を調査し、把握して活用していきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は系列の病院を希望する家族が多く、職員が付き添い、介助を行っています。以前からのかかりつけ医希望の場合基本家族が付き添い、その後家族から情報を聞き、共有できるようにしています。	職員が受診支援していて家族も安心なため、全利用者が系列病院に変更しています。協力病院まで車で10分程で、歯科医院もすぐ対応があり、また訪問看護は週1回来所しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による週1回の健康管理の他に、系列病院と24時間体制で連携を取りながら利用者の健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や相談員と相互に連絡を取り合っており、関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期についての方針を説明し、同意をいただいています。	看取りはしない方針で、契約時にも『重度化した場合の対応に係る指針』を通じて家族と合意形成できています。重度化した場合は家族及び医師の意見を仰ぎつつ、系列病院をはじめとする各種機関への移設支援をおこなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修で実践力を身につけられるようつとめています。また、急変時の対応マニュアルを用意いつでも確認できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームではあらゆる事態を想定した防災訓練を、年2回行っています。また、夜間にも対応できるように緊急連絡網を作成し、災害時に活かせるようにしています。	管理者の自宅が裏にあり、近所とのリレーションは確かであれば駆けつけてもらえる関係にあります。法定訓練も2回実施し、地域の防災訓練には車椅子の利用者ともども見学にでかけています。	消防署職員の指導を昨年度受けていますが、今後もできる限り継続されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けは日々教育、指導しており職員の理解も得られていますが、場合によって強い口調が聞かれる事もあります。気づいたらその場で話し合うことを行っています。	申し送りでは氏名をぼかしたり、職員の表情が見えないよう工夫しています。トイレには消耗品ストックはありません。食事中、「お手伝いさせてもらってもいいですか？」と声をかけて介助に入る職員を視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位の生活を心掛けていて、コミュニケーションを通じて個々の希望を表現しやすい環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	便宜上、ホームでの1日の流れを作成していますが、それに捕らわれることなく、利用者のペースで過ごせるよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容をはじめ、2ヶ月に1回任意での散髪を行ったり、本人の希望に合わせた服装をしていただけるよう配慮しています。女性の場合マニキュアやお化粧などのおしゃれも支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備、配膳、下膳を日課としている利用者がいて、職員と一緒に、楽しみながら生活しています。	ランチョンマット、キット類の配色、「皆で食べると美味しいね」との職員の声掛けが響き、楽しさを提供しようとの意欲が覗えます。色鮮やかで家庭的な食事が職員努力で叶っており、食後もゆったり過ごしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により食事量や栄養バランスは管理されています。水分量も不足しないよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の見守りや介助にて口腔ケアを行っています。義歯使用の方には許可を得て食後預かり洗浄しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄を、行って頂くよう支援、援助しています。	パターン把握ができるまでチェックシートを続けています。寝たきり状態での入所は起きる訓練からはじめ、日中リビングでも過ごせるよう支援するなかで排泄も運動して向上しており、3ヶ月で布パンになった例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取や適度な運動など、個々に応じた予防をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴担当者を配置し、いつでも本人の希望で入浴出来るようにしています。	週3回をめやすにしていますが、希望があれば応じています。香りでも寛いでもらおうと、浴剤は4種類用意しています。2人介助が増えていて職員が整形に通いつつも、湯に浸かる満足感を味わってもらえています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて休息をとっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服薬の説明をよく読み、理解したうえで服用の介助をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を一緒に行ったり、日光浴、散歩、読書など、利用者がゆっくりと、過ごせる環境を提供できるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当者職員が中心となって個別及びグループ別に外出援助をしています。	「回らずしに行きたい」気持ちが心身状態を回復させた利用者もいて、個々の要望に応じて2～3ヶ月に1度の個別外出を位置づけています。系列機関から皆で出かけるための車を借りることもでき、桜の花見は全員一緒です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は職員が行っていますが、本人と家族の希望により少量のお金を所持し、職員と共に買い物に出かけた際、自身で購入する事が出来るよう努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも手紙のやり取りが出来るように支援しています。電話も必要に応じて取次ぎをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの温度、湿度に配慮し、エアコン、加湿器利用し過ごしやすい環境を提供しながらも空気の入れ替えを工夫して生活環境を整えています。	共用空間から見える庭の枝には、職員が刺した蜜柑をめぐりにヒヨやメジロが訪れています。週刊誌や新聞が置かれ、利用者は気が向けばペラペラめくり、眺めています。ごく普通の家庭のリビングの様相ですが、車椅子の人もいるため5Sが行き届いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング窓際にソファを設置し、読書やTV鑑賞など、くつろぎながら生活出来るよう支援します。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に頼んで、馴染みのある物を持ち込んでいただき、なるべく自分の家にいるような空間作りを目指しています。	すべての調度品が揃い、シーツや蒲団もリースですが、持ち込みもできます。自室が分かり易くと入口には彩色豊かな花が描かれていますが、目線に合わせ管理者が手作りの平仮名の表札が光っていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からバリアフリーになっており、リビング、トイレ、廊下などには手摺を設置し、出来るだけ自立した生活を送れるような環境にあると思います。		